

しらかべ

2021年3月19日 人権・同和教育部発行



今冬は例年にない寒さと大雪のニュースが聞かれましたが、2月からは春を思わせる暖かい日を迎えるようになりました。昨年の今頃は新型コロナウイルス感染拡大によって突然の臨時休校となり、ほんとうに寂しい春でした。この1年は新型コロナに振り回され、同時に人権とは何かを考えさせられる1年間ともなりました。

さてこの2月、東京五輪組織委員会会長を務める元首相による女性蔑視発言が発せられたことで、女性の社会参加のあり方についての議論がさまざまな形で行われました。ちょうど昨年12月に世界経済フォーラム(WEF)が各国の男女の不平等状況を分析した「世界ジェンダーギャップ報告書2020」を発表し、報道されたばかりでした。その報告書によると、日本のジェンダー格差は対象153か国中、121位でした。紙幅の都合によりその内容を「深掘り」することはできませんが、男女雇用機会均等法が施行されて35年にもなる今年、男女の平等な社会をどのようにつくるかという課題に、日本社会は今も向き合い続けなければならないということ突きつけられたと言えます。今号では、今学期に実施した1年生対象の人権講演会と、1、2年生の人権・同和教育LHRの取組、そしてこれまでにいただいた保護者の皆様からの返信について、お伝えします。

★ 1年生 人権講演会 廣瀬 悠さん 順子さん 「二人で乗り越えた障がいとパラリンピックの壁」

今年の人権講演会では、パラ五輪リオデジャネイロ大会にご夫婦で参加した、愛媛県にお住まいの廣瀬悠さん、順子さんを昨年に引き続き講師にお迎えしました。今回は冬休みがあけてすぐ、新型コロナ感染拡大防止のため来県しての講演ができないということになり、急遽 ZOOM を使って本校体育館とご自宅を結んでのオンライン講演会になりました。

廣瀬さんご夫妻は、高校生や大学生の時に視力が低下して弱視となりましたが、それまで行ってきた柔道を続け、パラ五輪に出場するまでになりました。講演では2016年パラ五輪の出場体験などの楽しいお話に加えて、それまでの練習や生活を送る上でのご苦労、障がい者を取り巻く社会の課題についてお話くださいました。廣瀬さんからの語りかけがあったり、後半には本校生徒との質疑応答の時間を持ちたりと、双方向の講演会にすることができました。

(写真) 愛媛県にお住まいの廣瀬さんのご自宅と本校を結び、双方向のオンライン講演会に



《生徒の感想より》 日本は海外と比べて、心のバリアフリーが進んでいないという話を聞いて、はっと気付かされました。私も何か困っている人がいてもすぐに声をかけることができないことが多いです。「何か困っていますか」という言葉だけで十分助かると廣瀬さんが言われていたので、これからは少しでも心がけるように努力したいです。また、障がいはいつ誰に起きるか分かりません。順子さんも弱視になるまで障がいの方が使う道具や施設をまったく知らなかったとおっしゃっていました。私も知りません。日本人の心のバリアフリーが進んでいない理由に障がいに関する知識が乏しいということもあるのかもしれないと感じました。自分が障がいを持つようになるかもしれない、障がいを持つ方と仲良くなるかもしれないので、日頃から知っていきたくと思いました。▲最初の動画を見て感動しました。生まれつき障がいのある人だけでなく、友人を救ったときに自分を犠牲になってしまったりと色々な人のドラマがあって、障がいがあっても辛い時を乗り越え、楽しんでスポーツをしている選手のみなさんはとてもキラキラしていました。あまり今までパラリンピックに興味を持っていませんでしたが、今日の講演を聴いて、今年パラリンピックが開催されれば選手のみなさん一人ひとりを応援したいです。協調性のある社会を目指すために、私にできることもたくさんあります。自分のまわりにはたくさんの方がいてその一人ひとり自分しか持っていないものが一つはあると思います。それが才能であれ、障がいであれ、輝く個性だと思います。障がい者に対する偏見、差別がなくなり、みんなが平等に人として生きられる社会が一刻も早くおとずれてほしいです。今年は、日本でパラリンピックも開かれると思うので、たくさん外国の障がい者も日本に来ると思いますが、心温かく迎えられる、そんな国になってほしいです。

★ 1年生 人権・同和教育LHR 「私たちのまちを見わたしてみよう」

1年生3学期のLHRでは、「ある街の風景(絵)」を見ながら、そこで考えられる人権上の問題点などをグループで討議し、発表しました。その絵に描かれているのは、例えば横断歩道のないところを渡ろうとしている杖をついた男性。すぐそこに段差が迫っています。少し離れた場所に横断歩道はありますが、そこへ行き着くための点字ブロックの上にはたくさんの放置自転車が…。グループでは熱心に意見交換ができ、とても実りある時間を持ってました。少しの注意で解決する問題、わかってはいてもなかなか改善の難しい問題などさまざまな視点から人権意識をもって社会をみることの大切さを学んだ時間でした。

《生徒の感想より》 ▲当たり前の日常の街をよく見ると、危険な箇所が思ったより沢山あって、一人ひとりが少しでも努力すれば、解決できることもあると思いました。▲意外に身近なところに人権問題があることに気がきました。普段の生活でもそのようなことに気付き、行動できる人でありたいと思いました。▲私たちが何気なく通っている道でも、気付かないだけで、どこか、誰かが困っているかもしれないと考えることが大切だと感じました。▲全体を見渡して、たくさん危険なところがあり驚きました。そんな中で、少しでも安全に暮らせるように、私たち一人ひとりが出来る事を探さなければならぬと思いました。

★ 2年生 人権・同和教育LHR 「部落の歴史Ⅱ ～ 高松差別裁判事件から学ぶ～」

2年生3学期のLHRでは、1933年に起こった高松差別裁判事件を教材に、同和教育の歴史について学習しました。この事件は、被差別部落出身の若い男性が女性と知り合い、結婚を約束して一緒に生活をするようになったことに始まります。しかし女性の父親が自分の娘が誘拐されたと警察に通報し、男性が逮捕されました。裁判の結果、男性に対して差別的な有罪判決が下されました。当時、この判決を機に全国的な抗議運動が展開され、戦後、政府はこの裁判について謝罪しました。そして、後に憲法の人権に関する条文にも影響を与えました。LHRではこの裁判がどのような社会的な背景のもとで行われたのか、今の自分たちならどのような判決を下すかなどについて、考えながら進めていきました。



《生徒の感想より》 ▲自分がその立場に立った時のことを考えると、差別はおかしいものだとなぜ気づけなかったのか、不思議に感じました。▲大人になって結婚などの際に、実際差別発言をしている人がいたらどんな対応をすべきか考えてみると難しいなと思いました。▲憲法が改正されて、「両性の合意に『のみ』基づいて」という言葉が加わったけれど、「両性」という言葉に関しては、LGBTに配慮できていないと思うので、今後も様々な差別をなくすため、良い方向に変わってほしいと思った。

★ 保護者のみなさまからの返信より

今年度も人権だよりのご返信をいただきありがとうございます。ご家庭で人権についてお子様とお話くださっていることをうれしく思っています。この中で2年生の人権講演会(11月)についてお子様からお話を聞いて、私も聞きたかったとお言葉をいただきました。今年度はコロナ対応で保護者の方にご案内できませんでしたが、ご案内できるようになりましたら、またご参加いただけたらと思います。来年度も返信用紙を添えて人権だよりをお配りいたしますので、ご感想やご意見をぜひお寄せください。

★ お知らせ

現在、香川県では「Noコロナハラスメントキャンペーン～正しい情報をもとに冷静な行動を～」を実施しています。本校放送部がこのキャンペーンに参加して、キャンペーン動画を制作しました。本校HPにて視聴できますので、ぜひご覧ください。

映画鑑賞会やLHRの学習の内容や感じたことを子供に尋ねてみました。観て思ったこと学んで感じたことは少し時間がたった今でも子どもの心の中に残っています▲小学校6年生の生活発表会で同和教育について劇をしました。高校生になりあらためて学ぶことで、より深く知ったり感じたりすることがあったと思います。正しく知ることは今のコロナ差別についても共通していえることだと思います▲同時期に私の職場でも人権についてのアンケートがありました。これまで人権についての研修会に参加したこともありますが、同和教育は難しく、積極的な発言は躊躇されました。しかしこれからも考えていかなければならず、学校での取組みは大事だと思います。生徒さんならではの率直な意見がとても勉強になります▲ハンセン病と新型コロナウイルスを重ねました。生徒の方の感想にありましたように、自分自身の差別的な言動を止めなければ過去に差別を受けた方の思いや願いを踏みにじっているようでその通りだと思いました▲今は昔とは逆に情報があふれすぎて、自分で考える力が養われないように感じます。大量の情報の中で正しいものを見抜く力、自分はどう思うか、自分の気持ちを大切に持っていたいと話しました。